「対話と実行」座談会　高校との座談会
第３回「土佐塾高校」（H21.11.9）の概要

司会（先生）：　本日、尾﨑知事は生徒の皆さんとの対話を通して、高知県の現状と産業振興計画についての意見交換ができる、意義ある時間を持ちたいという思いでこの学校に来られています。生徒の皆さんも高知県について、改めて考えるきっかけにしていただきたいと思います。

（１）開会

理事長：　尾﨑知事とは縁故が深く、実は、知事は土佐塾の上町教室で４、５、６年と勉強して、そして改めて土佐塾予備校を出て東大へ、すぐに大蔵省というコースでまいりました。本当に高知県のことを考え、日本のことを考え、また世界へも目をやって行ける知事は尾﨑正直知事である。私どもは良い知事を持った、そのことを嬉しく思っています。

知事を迎えて、皆さんは普段の心で意見交換ができたら大変嬉しいです。

司会（先生）：　ここからは生徒会２名にバトンタッチしたいと思います。

司会：　本日、司会進行を務めさせていただきます生徒会長と副会長です。よろしくお願いします。

尾﨑知事、本日はお忙しい中、土佐塾高校にお越しいただき、また座談会の時間を取っていただきありがとうございます。高知県の将来を真剣に考える良い機会にしたいと思っています。

では、知事に演説を行っていただきたいと思います。演題は「高知の産業振興について～輝け！未来の高知」です。

（２）知事講話

知事：　土佐塾高校の皆さんこんにちは。今日はこの「対話と実行」座談会に応募していただきありがとうございます。理事長からお話しがあったように、私も土佐塾とはご縁が深く、小学校４年生から受験に向けて勉強をさせていただきました。受験生というと何か暗くて重苦しい時代、小学生なのに可哀想と周りの人に言われましたが、実際は楽しかったです。学校が終わったら、大急ぎで上町教室まで行って、他の学校の子どもと一緒にケイドロ（警察と泥棒役になってする追いかけっこ）で遊んでから授業を受け、10 分の休み時間も外で遊んで

いたので、いつも汗だくになって授業を受けていた覚えがあります。当時は勉強をやっていて面白かった、楽しく勉強することを教えていただいた気がします。

土佐塾高校の皆さんと、今日「対話と実行」座談会を持たせていただけることもまたご縁かなと思い、本当に嬉しく思います。

【高知県の経済の状況と産業振興計画】

それでは、高知県の産業振興についてお話させていただきたいと思います。一番最初に、今、高知県の経済がどういう状況になっているかについて、その後、高知県の強みと弱みのお話をさせていただき、それを受けてどういうことをしていくかお話したいと思います。

高知県の経済は今、どういう状況にあるか。1人当たりの毎年の新しい稼ぎ、名目ＧＤＰが全国第 46 番です。単に 46 番というだけでなく、全国平均の７割しかありません。東京と比べて半分しかないという状況です。今、日本は豊かですから、全国平均の７割しかＧＤＰがなくても、食べていけないとか餓死者が出ることはありませんが、例えば新しい仕事が県内になくて、若い人が県外で就職しないといけなかったり、中・高年になっても仕事がないので、お父さんだけ県外で出稼ぎをしないといけないという非常に厳しい状況にあります。

高知県の経済が抱えている大きな問題がもう一つあります。経済というのは、ものすごく好調で、どんどん稼ぎが増えて就職する人も増えてくる時と、稼ぎが減って就職口がなくなってしまう時と二つに分かれます。これが波のように上がったり下がったりするのが普通の経済の姿です。昔は高知県も、日本全体が良いときは、差はついていたけど良くなって、悪くなる時は悪くなってを繰り返していました。ところが平成 12 年から平成 19 年にかけて、日本全国でも戦後最長と言われるぐらい経済は好景気で、全国や四国の他の県も調子が良かったんですが、高知県だけは全然良くなることができない時期が７年間続きました。そして今、全国が悪くなり、それに合わせて高知県も悪くなっているという状況です。

全国が良くなる時にも高知県は全然良くなることができなかったことに大きな問題があります。日本全体の経済を論ずる時には、景気が良くなったら加熱しすぎないように、もう少し冷まそうとし、景気が悪くなったらこれ以上悪くなると大変なので、経済に熱を入れて早く良くなるようにするのが、普通の経済運営です。だけど高知県のように、景気が良くても悪くてもずっと低迷している県は、一言で言うと、経済の体力が根本的に弱ってしまっています。それ

が今の高知県の現状だと思っています。

景気が悪いときには、緊急経済対策や補正予算で対応すればいい。これは外科手術をするようなものです。でも、経済の体質自体が衰えているときには、体力そのものを強くしていく対策を取らないといけません。例えて言えば、漢方療法をやったり、日頃から毎日ランニングや筋トレをやったりして、少しずつ体力をつけていく。一部に刺激を与えたぐらいでは高知県の経済は良くなりません。必要なことは、経済のいろんな分野においてそれぞれの問題を克服し、そして強みを伸ばしていくための対策をとること、それをやろうとしているのが、この高知県産業振興計画ということになります。これは高知県の経済の体力を強くしていくための対策です。

機会を徹底的に生かし、脅威はできるだけ取り除くという対応をとろうとしています。経営学の用語でＳＷＯＴ分析というのがある。Ｓというのは強み（strengths)、そしてＷは Weaknesses で弱み、０は Opportunities（機会)、Ｔは恐れで Threats ということになりますが、強みを活かし弱みを克服し、機会を生かして脅威を取り除く。産業振興計画は、いろんな人と分析をして、どういう対応をとるかについて話を固めつつあるところです。

【高知県の強み】

高知県は他の県にない強みがいくつかあります。第１に食べ物がおいしいという強みがあります。「何だ、そんなことか」と思うかもしれませんが、これは生活面における総合力のようなことです。一次産業で良い物が取れ、それを上手に調理する方法がありますね。そして、楽しく食べさせる文化があります。これが全国でも高知県はトップクラスに達しています。いろんな雑誌のアンケートで、旅行客の皆さんに、「行った観光地で食べ物が一番おいしかったところはどこですか」って聞くと、高知県はいつも１位か２位になります。今後、強みを生かして産業振興をしようとしたとき、やっぱり一次産業を大切にしていこうじゃないか。更に一次産業で出てきた物を加工食品にして、全国に打って出ていけば受けるんじゃないか。一次産業、食品加工業、更にパッケージを作るデザイン業、物流業、卸売業、こういうところの裾野を広げていければ、高知県の強みを発揮して、他の県にも負けないんじゃないかということが分かってきます。

そして、観光地として魅力を持っています。自然がたくさん残っていることが非常に珍しい。高知県は森林面積割合が 84％と全国第１位で、そのうえ海に面している県です。日照時間や降雨量が全国第１位ということがよくあります。

たくさん雨が降って、山に入り、そのまま海に流れ下っていくような地形になっているので、美しい清流、四万十川や仁淀川が未だに残っている。単に汚すところがないから川がきれいというだけではなく、地形的な特性もあって、大規模だけどきれいな川が高知県にはまだまだ残っています。山からミネラルを含んだ水が海に流れ込んでいく、だから海も豊かで、おいしい魚もたくさん捕れたりします。グランドキャニオンとか、大雪山みたいに大規模な構造物のような自然を持っているわけではありません。けれども、人の生活に密着する清流や、美しい森、そして美しい海が高知県の自然の特徴です。

もう一つは、79 万人しか人口のいない県ですが、非常に輝かしい歴史を持っている。戦国時代の長宗我部の歴史、山内一豊以降の歴史、そして坂本龍馬に代表される幕末維新の歴史。未だに、上司にしたい歴史上の人物ナンバー１が坂本龍馬だったりと、いろんな形で坂本龍馬の順位は織田信長と並んで常に上位にあります。これだけ素晴らしい先輩を持っている県というのも、実は日本の中でもそんなにありません。「高知県といえば坂本龍馬」ってパッと出てくるような先輩を持っていることは、かけがえのない強みです。来年、大河ドラマ「龍馬伝」で高知県も沸き立ちます。これを生かして観光振興ができると考えられます。

アイデアの豊富な人が多いという点においても、高知県は結構なものだと思います。例えば、よさこい祭りは全国 220 箇所で実施されています。残念ながら、よさこい祭りを北海道のお祭りだと思っている人が結構いますが、あれは高知県のお祭りだということが浸透するようになってきた。地場で行われている祭りが全国で通用するのは徳島県の阿波踊りとよさこい祭りです。こういうものを持っていることも、また強みだと思います。

今、この強みに対して、いろんな追い風が吹いきています。例えば食べ物の分野については、中国の餃子事件で、餃子の中に農薬がたくさん使われている野菜が入っていて、大変なことになった。ああいう問題も起きて、自分たちが何を食べているのか分からなくなってきた。そういう中で、自然の中でできるだけ農薬を使わないような育て方をして、しかもそれが国産でどこで作ったか分かるような安全・安心でおいしい食べ物を多くの国民が求めるようになってきて、少々高くてもそういう物を買おうという時代になってきています。本当においしいナスとかピーマンなど、素晴らしい一次産品を作ることができる高知県には非常に追い風です。

皆さんは食べ物に困ること、少なくとも飢えることはないでしょう。日本は食糧自給率が 40％しかなく、自前では 40％しか調達できないのに、飢えること

がないのはなぜか。食料が外国からいくらでも調達できるからです。でも、その状況が 20 年後も続いているかは分かりません。中国やインドなどのいわゆる途上国と言われた国々がお金持ちになってきています。だから、外国で作った物が日本に回ってこないという時代が来るかもしれない。その証拠に、最近牛に食べさせる穀物の値段がどんどん上がっています。

だから、日本全体の目標として重要なことは、食料をできるだけ自給することです。その点においても一次産業は今後有望な産業です。多くの国は、できるだけ自分で食料を作ろうとしてきた。ただ日本は加工貿易立国ということで、農業をどんどん止めてしまって、輸入した物を加工して外に売っていく方法で儲け、そこで稼いだお金で食料を輸入して暮らしてきました。しかし、2000 年に近い日本の歴史の中でもそうやって暮らしてきたのは、戦後 60 年ぐらいにしか過ぎません。

産業の振興を図っていこうとするときには、高知県の強みであり追い風が吹いている一次産業を基軸にし、そして自然や歴史の観光業を主軸にするのが、こちらの考え方です。

【高知県の弱み】

ここから先は暗い話をしないといけません。高知県の経済はとてつもない弱みも持っています。先程、森林面積の割合が多いと言いましたが、逆に言うと平野が少ないということです。だから物を作ろうとしても、作れる量に限界があるのが一つの弱み。もう一つ、大きい消費地に物を売ろうとしても、物流コストがかかること。同じ物を売るにしても、たくさんお金をかけて運ばないといけないことも高知県の弱みです。

最大の問題は、人口がどんどん減っていることです。日本全体で人口が減り始めたのは平成 17 年からで、高知県で減り始めたのは平成２年からです。全国に先駆けること 15 年前から人口が減り始めました。これは若い人たちが県外に出て行ったからではなく、生まれてくる赤ちゃんより亡くなる人が多くなる人口の自然減が起こり始めたからです。

高知県の高齢化率は 27％に達しています。これは全国に比べて 10 年先行している。逆に言うと、小さい子や若い人たちの数がものすごく減っているんです。私の２～３歳年下ぐらいまでの人口は多いのですが、そこから下は、人口がグッと減ってきています。私は高知市立鴨田小学校の出身ですが、当時、鴨田小学校は高知県内で一番大きい小学校でした。私が小学校５年生のときに神田小学校と二つに分かれて、なお生徒数が 2000 人いました。今も鴨田小学校は高知

県の中で一番大きい小学校ですが、960 人しかいません。このように、若い人ほど人口が減っています。

これは二つの側面から経済に大きなインパクトを及ぼします。一つは、実際に物を生み出す 18 歳～65 歳の生産年齢人口が減っていくということは、物を作る人の数が減るので、作る物の数が減る。だから全体として経済の規模が小さくなる。物を買う側面から見ると、人がたくさんいれば、同じパンでもたくさんのパンを食べます。だけど人の数が減っているので、パンを食べる人の数が減っている。加えて高齢化が進んでいるから、１人当たりが食べるパンの数も減っている。だから、県内市場はどんどん小さくなっています。

高知県内の商品販売額は、平成９年が約２兆円。それが今、1 兆 6000 億円と、約 20％の売上が減っています。これは不況だから減ったのではなく、人口が減って高齢化が進んだから経済が縮んだのです。これが高知県の経済がいつまで経っても豊かになれない、根本的な原因です。いずれ日本もこういう状況に襲われていきます。先ほど、高知県にはいろんな強みがあると言いました。だけど、高知県はものすごく大変な状況に陥っているのもまた確かなんです。

【地産外商】

足下の経済が小さくなってしまっても、県民の暮らしを維持していくために何をしないといけないか。外からお金を稼いでくる地産外商を考えないといけない。日本人はこれから国産の物をどんどん食べようとし始めるから、その人たちに日本で一番おいしいと評価されている高知県の食べ物を売っていくことでお金を稼いでくる力をもっとつけないといけない。観光にしても、「高知県といったら坂本龍馬」と言われるようなすばらしい先輩がいるんだから、その人たちの歴史を生かしながら、すばらしい自然も見てもらって、観光客にお金を現地で使ってもらう。そのような力をつけていかないといけません。

足下の経済が縮んでるからこそ、外に出ていく力が必要です。歴史上ものすごく小さい国なのに、世界に覇を唱えた国がいくつかあります。ベネチアが典型的です。独立国として何百年も歴史を保つことができた。あそこは加工貿易をやって経済を維持してきた国です。ポルトガルはどちらかというと地産外商かもしれない。小さい国ですが、そこで産した物を外に売り、外国から持ち帰った物をヨーロッパ中で交易することで経済を維持してきた国です。

経済が豊かにならなくても、心が豊かになればいいんだという議論もあるでしょう。心が豊かであることが最終的な目標だと思う。しかし、経済的に豊かであることは心の豊かさにも関係してきます。人はパンのみにて生くるにあら

ず。だけど、パンがないと生きていけません。だから、地産外商を考えていくべきだと思います。

高知県の持っている弱みが、このときに重くのしかかってきます。地産外商をするのは簡単なことじゃない。高知県の物を東京や大阪まで持っていくのは、物流コストがかかり、高くて売れなくなるかもしれません。その上でなお儲けが出るようにするためには、高くても買いたいと思えるような付加価値のある魅力的な商品づくりをしていかないといけません。これはいろんな知恵が要ります。つくった物を、東京へ持っていっても、簡単に売れるものではない。いろんな苦労を積み重ねて、東京でも売れる商品づくりをしていくことが重要だと思います。

一言で言えば、生産地をもっと強くする。狭い土地でもたくさん物が作れる体制をつくる、東京でも売れる物を作るために付加価値の高い商品づくりの技術援助をしていく、パッケージを良くするための援助をしていく。新しい商品を作ったら、それが本当に売れるかどうか、試し売りをして商品を磨き上げていくことがぜひとも重要です。試し売りをするような場をつくる、更には東京・大阪などで高知県の商品をもっと売り込んでいく場をつくるという取り組みを県全体として行っていこうとしています。

商売の取り引きをする場合に商品を見せて話し合う商談会や、高知県の物を特に売り込んだり、レストランで高知県の食べ物を使ったメニューを作ってくれる高知県産品フェアを、今、盛んにやっています。去年は全国で 13 件でしたが、今年は既に 37 件と去年の約 3 倍のペースで売り込みを図ろうとしています。いろんな困難はありますが、地産外商を成し遂げていくことで、高知県は必ずや県勢浮揚を図ることができると思っています。

【新しい時代を切り開いていく高知県に！】

だんだん全国で人口減少と高齢化に襲われるようになる中で、私は、真っ先にその困難を克服する県に高知県がなってやろう、「高知県がこうやってこの問題から切り抜けた」「高知県の真似をしよう」と思われるような県になりたいと思っています。それを真っ先に切り抜けることのできる強みを持っている県だと思っています。

チャレンジャーみたいな意気込みかと思います。高知県がやろうとしていることは、過去の前例にしたがって物事に進んでいくことではない。日本人がかつて経験したことのない人口減少、高齢化社会をどう克服するかという日本の歴史のフロンティアに直面しているのが高知県みたいなところ。皆さんはこれ

から県外に行かれる方や県内に残られる方もいらっしゃると思いますが、どこにいても歴史上、日本が初めて直面する課題に立ち向かおうとしている県が皆さんのふるさとなんだということは、忘れないでいただきたい。それを克服するためにみんながどのように努力しているのかを、見つめていてもらいたいと思います。それぞれの立場で問題を克服して、新しい時代を切り開いていくための努力を皆さんそれぞれでしてもらいたいと思っているところです。

司会：　尾﨑知事、貴重なお話ありがとうございました。先ほどの演説を聴いて、何か質問のある方は手を挙げてください。

生徒：　観光についての質問です。高知駅は新しくなり英語でアナウンスをしていると思うのですが、他の観光名所では英語表記の看板や英語のアナウンスがないので、外国人が観光しづらいと思います。外国人にも観光しやすいようにはしないんですか。

知事：　高知県は外国人観光客数が全国 47 番で、ものすごく少ないんです。外国の人は大体まず東京・京都・奈良とか、日本の中でもトップバッターみたいなところへ行きます。それから、リピーターになってくれる人がだんだん地方に行き始めるけど、四国が一番最後になっている場合が多いようです。四国全体で外国人の皆さんをもっと呼んでくる取り組みをしないといけませんが、逆に言うと、看板がないから外国の方が来ないというより、外国の観光客があまり多くないので、外国人対応の看板とかが準備されてないところがあると思います。だけど、中国の方なんかも、東京とか京都にたくさん行って、別のところに行きたいと思う人が増えています。そういう人を呼んでくるためにも、来たときにがっかりされないように、看板などをもっと増やしていくべきでしょう。（県内観光地の）メジャーなところさえもできていないので、まずはメジャーなところからやっています。東京なんかは日本語・英語・韓国語・中国語の４カ国語表記をしたり、駅は全部番号で表示しています。これからの課題というか、今やり始めた課題だと思います。

生徒：　知事は先ほど、産業振興計画の一つの方法として地産外商とおっしゃったんですが、他の県ではどんなことをして、産業振興を図っているんですか。

知事：　県によってそれぞれの持ち味を生かそうとしています。例えば地域を豊かに

するためには企業誘致をすればいいというのが、一つの定番になっています。栃木県や三重県とか割と大都会周辺の地方の県には、これでうまくいっている県もあるんです。栃木で工業団地を造るとあっという間に埋まって、一大工業群ができたりします。高速道路を使ったら東京まで１時間ほどです。すぐ港で物を載せられて、地価や人件費も安いということがあります。しかし、残念ながら高知県で大規模工場を誘致しようと思っても、企業にしてみれば、高知に来るより、関東近辺に行ったほうが良いとなるでしょう。

だから、無い物ねだりをしてはいけないと思います。皆さんは「一次産業だと地味やなぁ」と思うかもしれませんが、一次産業は、人間が生きていくためになくてはならない産業で、追い風が吹いている産業だし、いずれ日本の主力産業になります。新しい国の政策でも成長戦略を立てる時に必ず農業が入ってくるという時代に徐々に変わりつつあります。高知県の場合は、高知県が持っている強みをすくすくと伸ばしていくようなやり方がいいんじゃないのかなと思っています。

かと言って、企業誘致を諦めるわけではありません。高知県に適した企業誘致というのもあります。先ほど、物流コストがかかると言いましたが、例えば小さくて付加価値の高い精密機器を作る場合は、割と遠い県でも立地してくれることがあります。そういうものを狙って、企業誘致もしていますが、やっぱり一次産業、それに関連する産業、そして観光をメインエンジンとして取り組みを進めています。

（３）プレゼンテーションと知事コメント

司会：　各学年の代表者による生徒独自の産業振興計画のプレゼンテーションを行います。高１・高３生から具体的なプランを発表する前に現在の高知県に対する高校生や保護者の思いを、アンケート調査をもとに高２生が発表します。

① 高校２年生（私たち高２の声、親の声―高知の現状）

生徒：　僕たち高２生は知事との座談会に向けて、高知をより住みやすい県にするためのクラス討論を行いました。

まず、今の高知にどのくらい満足しているか、10 点満点で評価してもらいました。各クラスの得点は、４～６ポイントで、高２全体の平均は 4.9 ポイントでした。

【クラス討論での意見】

●高知県の魅力

最後の清流と言われる四万十川をはじめとした川や海・山などの自然が豊か、カツオ・ブンタン・ショウガなどの水産・農産物やリープル・ごっくん馬路村・ぼうしパンなどの高知発祥のおいしい食品がある。また、高知を代表するよさこい祭りやルイ・ヴィトンの専門店がある、アンパンマンが全国的に有名、星空がきれいに見える、東洋町などサーフィンのスポットが多数ある、四国八十八カ所巡礼地がある、空気が新鮮できれい、「広末涼子」「間寛平」「やなせたかし」などの有名人がいる。このような意見が高知の魅力として挙げられました。

●高知県に足りないもの

良いところのＰＲが足りていない、若い人材の流出による人手不足、県を愛する心や活力・活気が足りていない、交通の便が悪い、交通機関の運賃が高い、バス・鉄道・路面電車などの線路の延長が必要、他県に比べテレビのチャンネルの数が少ない。また、一流のスポーツチームがない、日本三大がっかり名所の一つとして有名なはりまや橋に代わるがっかりしない名所が欲しい、若者向けの娯楽施設・服屋・デパートなどがない、駅周辺の開発が遅れている、学力の高い大学がない。以上が改善して欲しい点です。

●坂本龍馬をアピールするべきか、または別のキャラクターを作るべきか

アピールすべきと、すべきでないという意見が大体半分に分かれました。別のキャラクターをアピールすべきだという意見には、候補としてアンパンマン・「くろしおくん」などの従来のキャラクター、長宗我部元親・広末涼子などの有名人物、鳴子やカツオ・野菜などの名物といったものが挙がりました。

●高知県の子どもの体力、学力をどう伸ばすか

［体力面］

スポーツテストを全員にやらせて目標のハードルを上げる、よさこい祭りへの全員参加、登山など高知の自然を生かした授業を行う、低学年のうちに基礎体力を育む、広い公園を作り屋外で遊ぶ機会をもっと増やす、自転車専用道路を作りサイクリングできるようにする、体育の授業で筋トレを必修にし直接的な体力向上を目指す、県のスポーツ大会の目標を上げる、小さい頃から農業・漁業の体験をさせる、という意見がありました。

［学力面］

学習塾を増やし塾に行くのを義務づける、塾に行かせるのではなく学校の授

業時間を増やす、他県の学校を視察して良いところを授業に取り入れる、県内のレベルに合わせた独自の統一テストを行う、全ての学校が土曜日にも授業を行う、先生の数を増やす、学校の質を上げるため有能な先生を雇う、科学フェスタなどを増やし学ぶことに興味を持ってもらう、という意見がありました。

●将来どんな仕事があれば（条件が整えば）高知に帰ってきたいか

電子工学系の企業がある、高知の自然を生かした第一次産業がある、第三次産業の拡充、高収入の仕事や労働条件の良い仕事がある、（医者を目指している生徒から）カリスマ医師がいる大きい病院がある、県内の物を県外に売り出すような高知のことを知っている人でないとできない仕事や有名企業がある、若者向けファッションタウン、帯屋町のショッピングモール化などが挙がっていました。

多くの意見に共通していたのは、田舎の良さを生かせる仕事ということです。

【家庭アンケートでの意見】

より幅広い情報を集めるため、高２学年の家庭アンケートを実施しました。

高知県に対する満足度の平均点は６点でした。５～８点が多く、やや満足している人が大半を占めていました。

●高知県の魅力

ショッピングセンターに生産者コーナーが多くあり生産者を身近に感じられる、県民性が大らかで温かい、気候が暖かく穏やか、空気がきれい。生徒と共通する意見には自然が豊かである、誇れる偉人がいる、よさこい祭りがある、カツオ・文旦・ユズなど新鮮な食材が多い、がありました。

●坂本龍馬をアピールするべきか、または別のキャラクターを作るべきか

賛成 98 人、反対 75 人ですが、大河ドラマ「龍馬伝」のある来年まではアピールするという意見が多くありました。反対意見では坂本龍馬は十分有名だ、などがありました。坂本龍馬以外のキャラクターを考えるとすれば、現在県外で働いている人・吉田茂・ジョン万次郎・土佐犬・高知城キャラクター・有川浩・くろしおくん・長宗我部元親などがありました。

●他県との比較

［プラス面］

人が開放的かつフレンドリーで暮らしやすい、田舎だけど田舎の良さがある、昔ながらの行事がある、近所づきあいがある、などがありました。

［マイナス面］

接客業が妙にフレンドリー過ぎる、全てにおいて一番遅れた県である、他県

から孤立している、中心街の活気がない、離婚率・全国学力テストなどワーストが多い、地域格差がある、若者が定着しにくい、などがありました。生徒と共通する意見には、交通機関などが不便でアクセスに時間がかかる、おしゃれなスポットや出かけるスポットがない、駅をもっと充実させるべきだ、がありました。

●高知県の子どもの体力、学力をどう伸ばすか

［学力面］

補習をする、本を一定時間読む、ゆとり教育の撤廃をする、基本的生活習慣を身につける、親の経済力を高める、がありました。生徒と共通する意見には、小学校の担任を増やす、先生や保護者が熱心に取り組む、土曜日の授業を実施する、科学館やプラネタリウムを作る、などがありました。

［体力面］

歩く習慣を身につける、利用できる施設の格安化をする、親子が安心して遊べる場所を増やす、生徒と共通する意見には、外で遊べる環境を作る、体育の専門教師を置く、がありました。

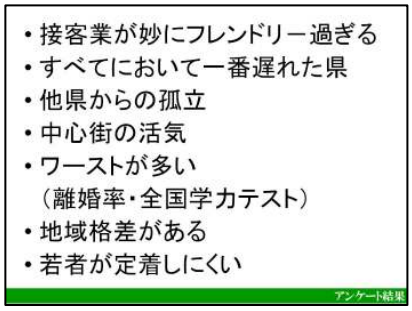
●将来、子どもに高知県に帰ってきて欲しいか、またその条件について

賛成 75 人、子どもに任せる 40 人、反対 38 人で、子どもに任せるという意見の多くは帰ってきて欲しいが、最終的判断は子どもに任せるというもので、全体的に見ると賛成意見が多かったです。帰ってくる条件は、大学で学んだ知識が生かせるような働く場所がある、やりがいのある仕事がある、農業者を増やす、農業政策のレベルを上げる、農業・漁業を中心に独自のブランドを作る。生徒と共通する意見には、若者が働く所がある、第三次産業が活発になる、安定した収入がある、がありました。

【まとめ】

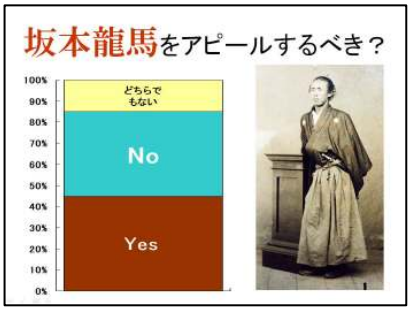
この討論やアンケートで、高知県は寂れているや活気がないなど、多くの厳しい意見がありました。しかし、これらの意見は高知県が好きだからこそ出てくるのだと思います。知事には、問題を改善し、高知県をみんなが住みやすい県にしてもらいたいと思います。

知事：　どうもありがとうございました。接客業が妙にフレンドリーすぎる、というのはおもしろかったですね（笑）。良い所、悪い所のアンケートは勉強になります。「輝け！未来の高知」と書いていますが、他力本願で輝けるわけじゃない。自分たちで努力して輝ける



ようになるのだと思います。そのためには、自分たちがどこにいるか、冷静に判断して、悪い事は悪い事として認め、それを克服するためにはどうするか、率直なところから考えていかないといけない。そこから全てはスタートするのだと思っています。

どうして坂本龍馬をアピールすべきかという問いを立てたのかについて興味があるんですが、龍馬だけではないと思うからですか。



生徒：　坂本龍馬ばかりアピールするけど、坂本龍馬は有名なので、長宗我部元親など、もっと他の人をアピールしたほうがいいと思って出しました。

知事：　もっと伸びていくためには他の人もアピールした方がいいですよね。だけどアピールするのも難しくて、あれもこれもアピールしているとインパクトが少ないというのもあり、ある程度集中することも重要だと思います。来年は大河ドラマ「龍馬伝」ということで、坂本龍馬を一生懸命、アピールしています。龍馬伝は、岩崎弥太郎から見た坂本龍馬ということになっていますが、三菱財閥を作った岩崎弥太郎は全国で必ずしも知られていません。来年の「龍馬伝」に合わせて坂本龍馬だけじゃなく、岩崎弥太郎などもＰＲする取り組みをしていきたいと思います。

将来どんな仕事があれば高知に帰って来たいかという問いは、非常に参考になります。高知県で働くことと、東京で働くことは、ある意味、坂本龍馬の生き方と西郷隆盛・木戸孝允の生き方の違いに似ているところがあると思います。例えば、東京に出て行って、大会社で働くことになると、非常に大きな組織で働くことになり、その大きな組織で偉くなることができれば、大きな仕事ができます。高知にはものすごく大きな会社があるわけじゃありませんが、逆に言うと、会社の中で比較的早く責任ある立場で仕事ができるようになることもあります。大きな組織の一員となって将来その上を目指していこうとするか。比較的小さいかもしれないけど、その中で重要なポジションを占めて活躍し、小さいやつを大きくしてやろうと頑張るか。例えば、西郷隆盛や木戸孝允は薩摩藩・長州藩という組織で動いた。坂本龍馬は、浪人として個人で動いて、自分で自分の組織、海援隊でベンチャーみたいなものを打ち立てて動いていこうとした。坂本龍馬についてもっとアピールすべきと思う人と思わない人が半々ぐらいに割れるというのも、どういう生き方に共感するかに起因すると思います。高知県はチャンスを生かして伸び上がっていくことを目指している県でもある。

そういう中で、私はできるだけ若い人々に高知県の中でチャレンジをしてもらいたいと思います。他方で、皆さんそれぞれの選択も非常に大切なので、いろんなことで悩まれて、早々軽々に結論を出さずに考えていただければと思います。

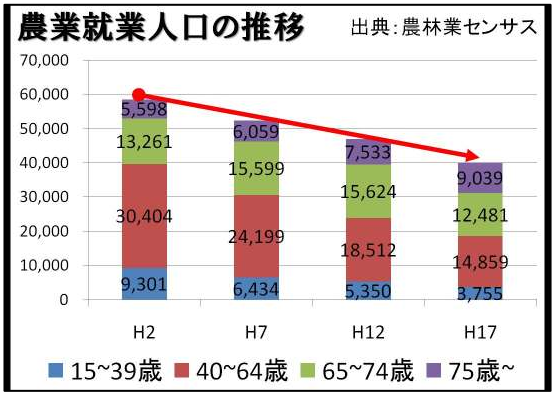
最後に体力の問題ですごく心配していることがあります。高知県は体力テストが全国で最下位でした。だけど、全部の種目が最下位だったわけじゃない。例えば、隣の人と競い合うボール投げとかは比較的成績が良かったんです。一番駄目だったのが長距離走などです。最後の最後まで一生懸命走りきったのか。実は、そういう持久力を試す種目がものすごく悪く、総合力で最下位になりました。

体力が他の県に及ばないことも大変ですが、私が心配しているのは、一生懸命最後までやりきる気持ちが十分身についていない小・中学生が多いんじゃないかということです。学力の問題も、基礎の問題ができない中学生がいます。体力の問題と合わせて考えると「おおの、こんな勉強するがしんどいよ。やりとうない。」と思ったときに、それでも一生懸命困難に立ち向かってやり抜くことが身についてないのだとすれば、これは学力や体力の成績が低いことよりもはるかに重大な問題だと思っています。一生懸命ものごとに取り組む姿勢を身につけていくように努力していかないといけないと思います。

② 高校１年生発表（農業 de 鶴の恩返し作戦！！）

生徒：　僕たちは高知県の農業を活性化させるプランについて考えました。高知県の一番の強みは、農業などの農林水産業であると思います。全体的に産業基盤の弱い高知県の中で、外貨を獲得できる産業として大変重要な位置を占めているのではないでしょうか。そこで僕たちは、高知県の農林水産業を活性化させることが必要であると考えています。

高知県の農林水産業の現状は、近年になるにつれて、農業就業人口が大幅に減り、40 歳未満の農業就業人口は、平成２年と平成 17 年を比べると約３分の１にまで減っています。林業・漁業についても同様に担い手が不足しているのが現状です。この現状を打破するには、農林水産業の若年層の担い手を増やすことが必要です。



そこで、僕たちの考えたアクションプラン、名づけて「鶴の恩返し作戦」です。このプランは、産業振興学生という、高知大学農学部の入学者 20 名の４年間の授業料を全額免除する代わりに、卒業後 10 年間は高知大学・高知県と連携し、高知県の産業を発展させるために貢献してもらいます。それを実現するには、生産者・高知県・高知大学で連携し、一つのサイクルをつくります。大学にいる４年間は、高知県・生産者と連携して新しい技術を開発し、卒業後 10 年間は高知大学・高知県と連携して付加価値の高い商品を作り、高知県だけのブランドとして全国へ売り出していきます。そうすることによって高知県の産業が活性化すると同時に、農業の若年層の担い手不足も解消されます。

僕たちの考えた具体例として、高知県の農産物に使う農業肥料の開発や海洋深層水ナスに続く、海洋深層水商品の開発があります。

また、この計画に伴う予算として、高知県が負担する産業振興学生の授業料は一人当たり、高知大学４年間の授業料である約 200 万円。産業振興学生の人数を 20 人と考えると約 4,000 万円かかります。とても大きな金額に見えますが、高知県の農業が活性化されたり、担い手が増えることを考えると、この金額は大きくないのではないでしょうか。これが実現すると、産業振興学生が高知で農業従事者になり、高知県の農業を活性化させることができます。

③ 高校３年生発表

（リアル田舎に泊まろう！～高知のいいところをつめこんだ旅プラン）

生徒：　私たちは「リアル田舎に泊まろう！」という、高知県の良いところを詰め込んだ旅プランを、高知の産業を元気にするアクションプランとして考えました。

高知県の良いところの一つは田舎ならではの人の温かさです。地元の人のホスピタリティを感じたという全国のアンケート調査で第４位に挙げられるほど、おもてなしの心を持っています。二つ目は、豊かな自然です。高知県にはカツオに代表される、おいしい農産・水産物がたくさんあり、食べ物だけでなく、サーフィンやダイビングなど、自然レジャーとしての活用も可能です。三つ目は、世界に誇れる歴史です。高知県は坂本龍馬や岩崎弥太郎など、今日でも多くの人から尊敬される偉人をたくさん輩出しています。これらの良いところを利用したアイデアがホームステイ式民泊です。自然活動、農業・漁業体験など、高知をアピールできる民家が中心となって観光客を受け入れ、観光客に高知の良いところをたくさん知ってもらうというものです。

これは県と県民が協力することが必要となります。まず、県が観光客を泊めても良いという民泊先を募集し、応募者の家の環境などについて現地見学をして調査します。そして良さそうな家を民泊先として登録し、パンフレットを作成します。次に、観光スポットを載せたパンフレットを作成します。このパンフレットは観光客が行きたいスポットを選択するのに使い、桂浜や足摺岬などのＡ級スポットだけでなく、あまり知られていないＢ級スポットも盛り込むことで、観光客は新鮮さを味わえ、観光が県全体に広がることが狙えます。あとは観光客に泊まりたい家、行きたい場所をパンフレットから選択してもらいネットや電話で申し込んでもらいます。

このプランは、観光客と高知県の両方にメリットがあります。高知県のメリットはリピーターの獲得です。人とのつながりを大切にし、新たな観光スポットを提供することで、「高知にまた来たい」と、より一層感じてもらえるようになります。農業・漁業体験も地域の活性化に役立ちます。観光客を受け入れることで人々の生活にも活気が生まれ、更に地域の現状を知ってもらえることで一次産業のボランティアの呼び寄せも可能になり、観光客が帰った後、高知県での体験を周囲の人に話してもらうことが宣伝にもなります。観光客のメリットは次の三つです。一つは、宿泊費がかからず、最低限の食費と体験費用しかかからないので観光客の金銭的負担を減らせます。二つ目は、高知県が観光客にとっての第２のふるさとになることです。都会に暮らす観光客は民泊先の人たちと関わりを持つことで、都会とは違った、人の温かさがある高知県を特別な場所と感じられるようになります。三つ目は、地元の人にしか知られていないＢ級スポットの情報が得られ、他の人とは違った方面から高知県を楽しむことができるようになります。

実際に旅プランの例を紹介します。１日目の午前中は、四万十川でカヌー体験と鮎釣り体験をして、昼食には午前中に釣ったとれたての鮎など、地元の食材を使ってバーベキューを行います。午後は大方に移動して、ホエールウォッチングをします。そして、夕食には土佐名物の皿鉢料理を食べます。２日目は、大月に移動してダイビングを行います。大月の海は沖縄にも負けないほど美しく、近年では修学旅行生の受け入れなどもしています。お昼ご飯は地元では有名なお店の「ところてん」です。ここは隠れたグルメスポットになっています。午後はコスモス祭りに行きます。その後はカツオの藁焼き体験をして、そのカツオのたたきを夕食で食べます。夕食後は星の観察をします。大月の空は非常に澄んでいて、星が降ってくるかのように見えます。

最後に、高知県の理想の未来の話をします。このプランを実行することで、

県民参加の観光産業が発展します。観光が県全域に広がることで、高知県中心部だけでなく、地方も活性化し、その結果、高知県内の就職口が増え、若者の県外流出も防げます。また、高知県の良さが全国にＰＲできることで、高知県の魅力に気づいた都会の人々のＩターンが増えて人口が増加することも期待できます。これによって、観光産業で県全体が発展するのです。

④ 知事コメント

【１年生】

知事：　まず、１年生の皆さん、どうもありがとうございました。農業の担い手が不足しているというお話はポイントの中のポイントで、ものすごく大切な課題だと思います。

今のまま農業・林業・水産業の人口がどんどん減って、担い手がいなくなると、10 年後には一次産業こそ高知県の強みだとさえ言えなくなるかもしれない、これが最大の危機感です。だから、農業の就業人口を増やすべしということで、徹底して取り組みを進めなければと思っています。こういう政策も面白いと思います。これからぜひ掘り下げて、研究してもらいたいと思います。

また有効求人倍率が 0.5 で２人に一つ分しか職がない状況にもかかわらず、なぜ農林水産業の就業人口は減ってしまったのかがポイントだと思います。一つは、農業自体が今まで脚光を浴びることがなかった。もう一つ、農業をするためには土地と高度な技術が要ります。お百姓とは、百の技術を持っている人という意味らしいです。空を見て天気を読む、草の生育で、その植物の有り様を見ることができて、いろんな害虫のことも知っていて、土のことも分かる。気象学、生物学、そして経営が分かるから百姓ができる。農業は、参入障壁が高く、新しく就こうとするのがすごく大変な産業ですが、この人口を増やしていかないといけません。

今、一生懸命実施している政策は、農業に就こうとする人に徹底して技術を教えよう、その間の生活費を支払いましょう、空いている土地を紹介しましょう、地域のコミュニティに溶け込めるように斡旋をしましょう、ビニールハウスを新しく作るときにお金も貸しましょう、というものです。去年まで新しく就農する人は 110 人ぐらいしかいなかった。今年こういう政策をやり始めて 160 人就農してくれることになり、就農人数が増えるようになった。生活ができるから農業に就こうという人が出てくることが一番大切なことだけど、こういう担い手対策もとって、農業に就いてくれる人を増やそう、将来消えてしまうなんてことは絶対ないように取り組んでいるところです。

【３年生】

知事：　３年生の皆さん、いわゆる滞在型・体験型観光を進めていくことは、私も大いに賛成です。これぞ、高知県の観光地の目指すべきところじゃないかと思っています。滞在型・体験型観光の対極に位置するのがレジャー型観光で、ディズニーランドみたいな大規模な施設を造って観光客を誘致しようというやり方もあります。高知県ではレジャーランドで観光客を引っ張ってくるより、せっかくある自然や、田舎の素晴らしさを味わってもらい体験してもらうことを観光としてやっていく方がいいんじゃないかと思っています。

自然があるのにあえてレジャー施設を造るのか、それとも、自然を自然のままで味わってもらうのか、いろんな考え方があろうかと思いますけど、今、県が一生懸命進めようとしているのは滞在型・体験型観光の推進です。

特にすごいと思ったのは、高知県のメリットの中で、リピーターをつくることができると書いているところです。実際にこういう形で民泊をして、田舎に入ってもらい、いろんな体験をしてもらうことでリピーターづくりにつながると思います。観光客のメリットに、Ｂ級スポット情報が得られると書いています。Ｂ級かどうかは別として、例えば大月町の柏島周辺の海に棲息している魚の数が 2,000 種類で全国ナンバー１というのは、高知の人にもなかなか知られていない。高知県にはそういう見どころが結構あるけど、地方の情報は、全国の人に知られていません。

高知県も高知市だけじゃなく、それぞれの地方のすごいところをＰＲしていくことが、観光客を増やしていくために必要なことだと思います。「土佐・龍馬であい博」のホームページがオープンし、新しいパンフレットもできていますが、高知駅前にメイン会場ができ、地方でもサテライト会場ができるので、会場を出発点としてクルッと回ってもらい地域の名物を食べてもらって、体験してもらう形で、ツアーを組もうとしてるところです。

この１日目・２日目のコースはなかなか面白いと思います。ポイントは四万十・大方・大月とあちこち回ることですね。いろんな地域を見てもらえるし、お金も落ちて、地域の活性化につながっていく。これだけ長時間かけて楽しめるのであれば、東京や北海道のような遠いところからもお客さんが来てくれるでしょう。本当に知恵が詰まっていると思いますし、私も勉強になりました。

（４）閉会

生徒：　この度はこのような場を設けてくださいまして、ありがとうございました。

今まで高知について考える機会がなかったので、この座談会を通して高知の現状や物流コストの話について聞くことができて良かったです。僕たちが大学を卒業する頃には、高知が今よりもっと良くなっていると思ったし、県民一人ひとりが高知を変えていこうと意識することで、高知がもっとすばらしくなっていくと確信しています。

・花束贈呈

生徒：　尾﨑知事、僕たち高校生が考えたプレゼンはいかがでしたか。各学年が真剣に取り組んだので、高知の産業振興に役立てられるものがあればぜひ使ってください。本日はどうもありがとうございました。

校長先生：　私どもは物理とか英語は勉強していますが、高知県というものについて集中して勉強したことは初めてです。高知県は大きな良さを持ちながら、一方では大変深刻な課題を抱えているというお話もお伺いしました。私どもはこれから学業を真剣に頑張って高知県を良くしていきたいと考えています。

今日は、尾﨑知事の高知県に対する情熱のこもったお話をお伺いすることができました。どうか高知県の輝く未来のために今後とも頑張っていただきますことを心からお祈り申し上げまして、閉会の挨拶といたします。

知事：　皆さん、長時間にわたってありがとうございました。

私は今日、皆さんにこのことを申し上げたかった。産業振興を図っていくにしても何にしても、大切なことは自分がどういうところにあるかを率直に見つめて、冷静に受け止めることから始まると思っています。今、高知県は非常に厳しい状況にある、これは紛れもない事実で、放っておいたら大変なことになりかねない。そういうことが現実に起こっていることは認めざるを得ません。

しかし、もう一つ申し上げたいのは、希望はあるということです。他の県が持っていない強みを生かしていけば、高知県もまた豊かな県になっていくことができると信じています。

私はこれから県政の立場で現実を冷静に見て、未来に夢を持って一生懸命高知県の県勢を浮揚させるべく頑張っていきたいと思います。皆さんはこれから受験や就職など、人生の難関が待ち受けていることと思いますが、それぞれの可能性を信じて、今の自分を冷静に見つめて頑張っていただきたいと思います。今日は「対話と実行」座談会に参加していただいて、心から感謝を申し上げま

す。プレゼンも勉強になりました。本当にありがとうございました。